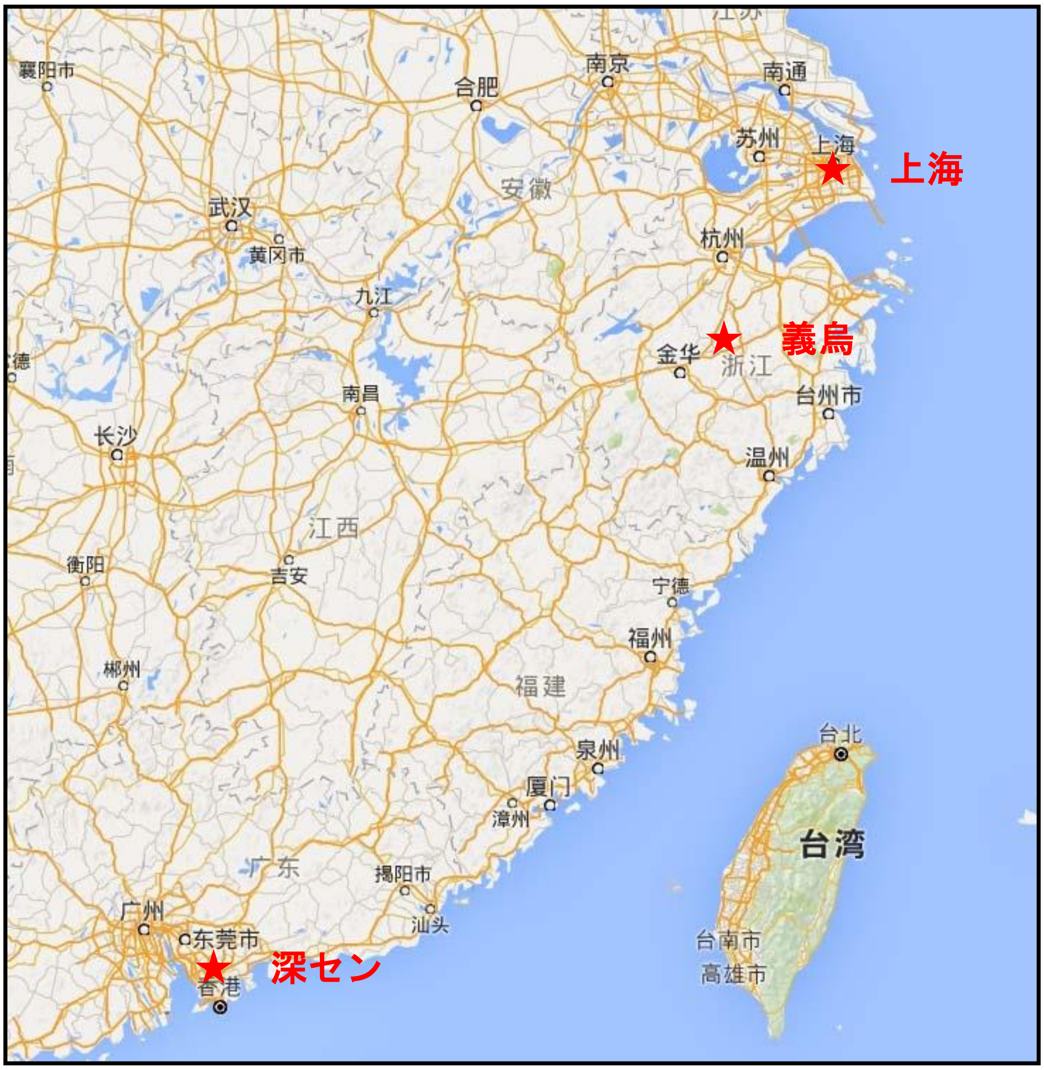
管外視察報告書

中国「上海・義烏・深セン」

日程：2015年11月17日(火)～20日(金)



民主こうべ政策議員団

調査者：平野　昌司（自由民主党）　日中友好神戸市会議員連盟会長
　　　　藤原　武光（民主こうべ政策議員団）　日中友好神戸市会議員連盟副会長
同行者：岡口副市長
　　　　みなと総局　岡田誘致担当部長、山村振興課長
　　　　産業振興局　安原農水産課長

調査活動日程

月日	都市名	現地時刻	調査先(訪問先)及び調査項目	宿泊地
11/17 (火)	大　阪	9：30	関西国際空港発	杭州
	上　海	11：15	上海浦東空港着	
		13：50	上海国際港務集団(SIPG)陳董事長 （上海国際客船ターミナル視察含む）	
		16：30	在上海日本国総領事館　片山総領事	
	上　海	18：28	上海虹橋出発	
	杭　州	19：35	杭州到着	
11/18 (水)	義　烏	10：30	義烏の日用品卸売センター視察	深セン
		18：50	杭州空港出発	
	深セン	21：10	深セン空港到着	
11/19 (木)	深セン	10：00	東莞エバーゲイン物流センター視察	深セン
		13：30	ＣＩＭＣ集中本社　麦伯良総裁	
11/20 (金)	深セン	9：30	ＣＩＭＣ坪山新区　現地視察	
		12：00	深セン出発	
	香　港	14：00	香港着	
	香　港	15：25	香港空港出発	
	大　阪	21：00	関西国際空港着	

調査先

上海

SIPG（上海国際港務集団）　※上海国際客船ターミナル現地視察含む

調査日時　11 月 17 日（水）13:50～15:00
対応者　　陳成源　董事長
　　　　　黄海東　上海クルーズターミナル会社　総経理

在上海日本国総領事館

調査日時　11 月 17 日（火）16：30～17：00
対応者　　片山総領事、後白領事

義烏

義烏国際商貿城（義烏の日用品卸売センター）

調査日時　11 月 18 日（水）10：30～13：00
対応者　　王　碧栄　義烏市商務局局長

深セン

エバーゲイン（永得利有限公司）東莞物流センター

調査日時　11 月 19 日（木）10：00～11：00
対応者　　永得利有限公司　小寺　元　部長
　　　　　永得利大森貨運有限公司　野間　裕司　董事長
　　　　　大森廻漕店　須藤　明彦　社長

CIMC（中国国際海運集装箱（集団）有限公司）集中本社

調査日時　11 月 19 日（木）13：30～17：30
対応者　　中国国際海運集装箱集団有限公司　麦　伯良　総裁
　　　　　深セン市中集産城発展集団有限公司　禹　振飛　総経理
　　　　　中集現代物流発展有限公司　刘　明田　総経理　　　　他

CIMC（中国国際海運集装箱（集団）有限公司）坪山新区

調査日時　11 月 20 日（金）9：30～11：00
対応者　　中集現代物流発展有限公司　　梁同　副総経理　　　　他

調査目的

視察の主な目的は、神戸港の活性化に関する一環として、クルーズ客船の誘致や中国から神戸港へのコンテナ物流増加の可能性を図ることである。そのため神戸市の幹部によるトップセールスをはじめ、現地の政府及び企業を視察し意見交換を行うことである。

特に、深セン市において日本企業が中国と世界との物流拠点を展開する企業を訪問し、神戸港へのコンテナ物流の可能性などの調査を行う。

また義烏市では、日本のみならず世界のバイヤーが買い付けに来る巨大な日用品の卸センターを視察し、神戸の物産品等もこの卸センターでビジネスが出来ないか等の調査を行う。

さらに、神戸市が支援要請を受けている「坪山生命健康タウン」構想の実現に向けた双方の協議を行うなど、多様な課題について調査する。

尚この度の視察は、日中友好神戸市会議員連盟の一員として神戸市岡口副市長や局幹部に同行し、視察団に参加することとなった。

SIPG（上海国際港務集団）

調査日時　：　2015年11月17日（水）13:50～15:00
対応者　　：　陳成源　董事長
　　　　　　　黄海東　上海クルーズターミナル会社　総経理

≪内容≫

上海国際客船ターミナルを現地視察ののち、懇談を行った。

「神戸フードフェアin上海」の開催を目指した、現地の客船ターミナルを視察。

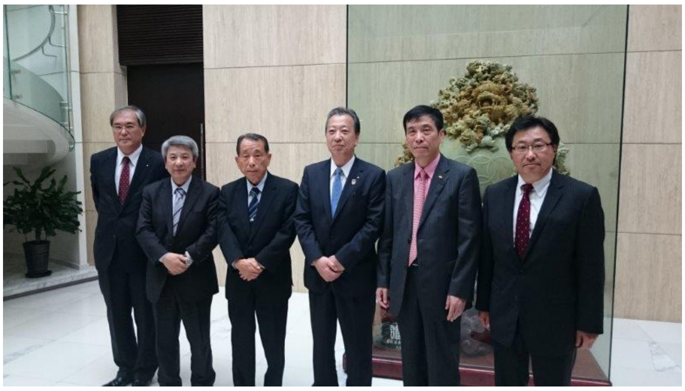
神戸スイーツを中心とする神戸産品の輸出を促進するとともに、神戸産品を上海で広めることと、日中国際フェリーと共同して上海・神戸間のフェリー航路利用による神戸産品の物流ルート構築を目指し、その可能性について調査を行った。

開催期間は、2015年12月10日～2016年2月5日に決まった。

しかし農産物については輸出できない産品もあり、政府間同士の課題となっていることも判明した。

今回の出店を契機に、日中の地方行政と民間ベースの間で、「政冷経熱」の時代に対応した関係を粘り強く築く必要を感じた。

（視察団）



・この12月に上海国際旅客ターミナルで「神戸フェア」を開催する。新鑑真号を利用した物流の増加に引き続き努力したい。

・来年はMSCが上海発着のクルーズを行うと聞いている。神戸寄港も予定されており、大歓迎したい。

・HASCO、上海錦江が統合されたと聞いている。神戸港の利用をこれまで以上にお願いしたい。

（SIPG）
・神戸港は重要な港であり、これからも利用したい。
・クルーズについても同様であり、SIPG としてクルーズ船の運航を計画している。神戸港は重要な寄港地である。
・上海国際客船ターミナルで世界のものを買える環境をつくりたい（GL　PLAZA)。神戸産品を扱う常設の神戸コーナーをつくってもいい。神戸産品の仕入れ先（商社等）を紹介してほしい。

（意見交換）
・クルーズ運行の時期は？
・神戸港にとって寄港地として必要なものは？
・瀬戸内クルーズを検討してほしい。
→クルーズ運行は現在検討段階。共同運航を予定している。来年 1 月には発表できると思う。日中航路がメイン。九州以外の日本一周を計画している。神戸港には寄港したい。
→神戸港は観光、飲食すべてがそろっている。今年の中国発着のクルーズ人口は 150 万人を超える。2020 年には 500 万人に達する。
→瀬戸内クルーズは素晴らしいアドバイスである。検討したい。

上海国際客船ターミナル内の GL　PLAZA（世界からの輸入品を販売。日本商品も取り扱い）

在上海日本総領事

調査日時　：　2015 年 11 月 17 日（火）16：30～17：00
対応者　　：　片山総領事、後白領事

≪内容≫
　片山総領事を表敬訪問し、懇談を行った。

（視察団）
・この 7 月には公邸にてセミナーを開催させていただき感謝申し上げる。
・12 月には「神戸フードフェア」を上海国際旅客ターミナルで開催する予定である。今後とも上海事務所へのご協力をよろしくお願いしたい。

（総領事）
・日本へのインバウンドが増えている。今年のビザ発給は 87 万件で昨年の 2 倍弱。
・神戸にもクルーズが来ていると思う。
・中国人は日本のお土産として「白い恋人」を大量に買って帰ると聞いている。
・今後とも公邸を活用いただきたい。

義烏国際商貿城（義烏の日用品卸売センター）

調査日時　：　2015 年 11 月 18 日（水）10：30～13：00
対応者　　：　王　碧栄　義烏市商務局局長

≪内容≫
（センター概要）

・義烏市は面積 1,105 平方 Km2、人口約 200 万人（定　住 70 万人、外来人口　130 万人）

・店舗は 7 万 5 千。延床 550 万㎡。国内外から 1 日に 20 万人のバイヤーが訪れる。

・外国企業は 100 か国から 700 社進出。1 万人が常駐。（うち日系企業約 20 社）

・市場の全体敷地面積は約 210 万㎡ 店舗約 75000 店 延床約 550 万㎡ 店舗最少ロット 9 ㎡。

・1993 年 義烏市政府が中心になり市場ビル建設や管理を行う中国商品城集団公司を設立。

・2002 年以降「福田市場」「中国小商品城（篁園服装市場）」「賓王市場」の 3 大市場が開業し、中国有数の日用雑貨（衣料、工芸品、電気工具、台所用品、各種グッズ、玩具等）の卸売市場に成長（例 全世界で販売されるクリスマス商品の 65％が義烏商品）。

・義烏市 GDP は 1984 年 0.2 億元から 2009 年 556 億元へ､25 年間で約 2,800 倍の伸び。

・日用雑貨の卸売値は日本円換算で 1/10～1/5 程度。高規格商品はネット販売が急増（昨年比 40％増）し、バイヤー来館者が減少気味。店頭卸売とネット販売の両立が課題。

・本年5月に義烏で第2回輸入フェア開催。参加者17万人（4日間）、1万件以上の成約。来年同月に第3回開催予定。「神戸の企業にはスペースを無償提供したい」（商務局長）。

・義烏近くの寧波港から年間90万TEU輸出。

・210か国と貿易実績あり、特にアフリカへの輸出が急増。
中国ーアフリカ貿易額 2000年～2011年総額100億ドル→現在1,600億ドル。
他の輸出先は中東アジア、南米、北米、日本等（日本への輸出は10億ドル以上）。

（意見交換）

・今後の展望は？　義烏まで行けない中小企業も多くある。
→今後は中国の商品だけでなく、全世界の商品の販売拠点としたい。全世界商品を集め、販売したい。義烏には船会社、物流会社が集まっており、義烏に各地から商品を集めて輸出する方がコストは低い。神戸の企業、研究所にも是非義烏に進出していただきたい。

エバーゲイン（永得利有限公司）東莞物流センター

調査日時　：　2015 年 11 月 19 日（木）10：00～11：00
対応者　　：　永得利有限公司　小寺　元　部長
永得利大森貨運有限公司　野間　裕司　董事長
大森廻漕店　須藤　明彦　社長

≪内容≫
（物流センター概要）

・1978 年創立。東莞、蘇州、太倉港に物流センターを保有。
・当初、香港にて倉庫建設。2000 年から中国本土で倉庫展開。
・東莞物流センターは敷地面積 50 万㎡。国内倉庫、輸入車向けの倉庫等を有している。敷地内には税関施設も入居している。
・新沙港が完成車の輸入港として指定（中国で 5 港指定）されているため、華南の輸入車のほとんどを扱っている。
・新沙港の取扱量は年間 100 万 TEU。RORO 船中心。神戸との直接の航路はない。

（意見交換）
・センターの現状について
→現在、日本車（トヨタ、日産）やドイツ車（ベンツ、アウディ）等の製造拠点に隣接していることが強みである。ユニクロの倉庫日立物流など、華南における物流の拠点としての機能が今後も続くであろう。

・今後の展望について
→今後は、華東における拠点立地を進める。太倉市、無錫市、蘇州市などに拡充予定。特に、太倉市に国内物流センター、保税物流センターの建設を行っている。会社としては、「物流センター・税関・国際港が合体した三位一体の総合物流サービス」を目指す。

CIMC（中国国際海運集装箱（集団）有限公司）集中本社

調査日時　：　2015年11月19日（木）13：30～17：30
対応者　　：　中国国際海運集装箱集団有限公司　麦　伯良　総裁
深セン市中集産城発展集団有限公司　禹　振飛　総経理
中集現代物流発展有限公司　刘　明田　総経理　　　他

≪内容≫

神戸からは、神戸港及び神戸空港の概要についてプレゼン。CIMCからは、CIMCの概要（日本語ビデオ）、モジュール建設（ホテル）、生命健康シティ建設についてプレゼン。

（CIMC概要）

・コンテナ製造世界50%のシェア
・中国国内飛行場のボーディングブリッジはほぼすべてCIMCが生産
・海洋産業、醸造設備、特殊車両等幅広い分野で事業展開
・モジュール式の建物（ホテル）、生命健康シティ計画を推進

（意見交換）

・神戸との協力関係について
→モジュール建設（ホテル）については、世界で実績あり。仙台でも実績あり。日本の中国関係旅行社と相談しているが、日本でのPRに協力してほしい。
→生命健康シティの成功要素は3つ。①CIMC、②深セン市の協力、③神戸の経験。将来の大きな産業になる。トータルをマネージメントできる人間を探している。神戸市の協力をお願いしたい。

CIMC（中国国際海運集装箱（集団）有限公司）坪山新区

調査日時　：　2015 年 11 月 20 日（金）9：30～11：00
対応者　　：　中集現代物流発展有限公司　梁同　副総経理　他

≪内容≫

「坪山生命健康タウン」構想の現地視察を行った。深セン市坪山新区経済服務局の方から、全体構想の説明を頂き、車で車窓からの構想の地区を見学することとなった。まだ、CIMC の工場がある地区なので分かり難いと感じたが、深セン市中心からクルマで 40～50 分かかるが、将来地下鉄が計画されるなど新しいタウンが誕生することが見えた。この構想の実現に向け、市政府と民間事業者が共同で事業を行う予定と聞いた。

中国も高齢化が進展し、生命や健康に関する事業が今後増えると見込まれることから、日本や神戸の高い医療技術のインフラ整備と合わせた事業として考えることが出来るのではないかと期待している。この様な状況を受けて、神戸の強みである医療産業に関する様々な連携事業の可能性があると感じられる。今後神戸の政策として検討を加えていきたい。

（意見交換）

・今後の神戸との関係について
→日本や神戸の高い医療技術やインフラ整備には大いに期待している。神戸市の様々な角度からの指導とご支援を頂きたい。

上海・義烏・深セン視察　所見

自由民主党　平野昌司

　この度の出張で大変勉強になったのは、我が国で報道されている中国の経済は経済成長率に陰りが見え、土地バブルもはじめつつあるとの認識が、上海・義烏・深センを訪問する限りほぼ誤りであったことです。

　まず最初に訪れた上海のSIPG（上海国際港務集団）。

　数万人の従業員のトップに立つ陳成源董事長は神戸港は重要な港。クルーズ船をもっと増やしたい。中国発着のクルーズ人口は今の150万人から2020年は500万人になる。

　次の日訪れたのはほとんど日本では知られていない義烏市。上海のような大都市ではなく、人口わずか200万人うち外来人口が130万人、従来から定住人口70万人、かつて行商を中心に暮らしを立てていたこの市に政府のお墨付きで突然変貌し、店舗数7万5千、売り場面積550万㎡、100ヶ国から700社が進出、年間1億人の来場者。こんな巨大な商業施設がこのような田舎の町に。われわれ多くの日本人は知らないだろうと思います。

　三日目に訪問したのはCIMC（中国国際海運集装箱有限公司）

　この会社は流通している世界のコンテナの50％を製造している巨大企業でその他海洋産業や醸造設備、特殊車両の生産やデベロッパーとして街づくりにも進出している。

　過去２回神戸の医療産業施設を視察し、中国も少子高齢化が急速に進み健康・医療の重要性を感じ、本社のある深センに「坪山生命健康タウン」を地元政府と共同で企画立案し実行に向けて我々神戸側に協力の要請があった。今後人的交流などから進めることになります。巨大なこのようなプロジェクトがそれらを動貸一企業でやろうとしているパワーに中国の経済の力の強さを感じます。指導者はほとんど40～50代。

　今回は3泊4日と短い日程とは言え、内容の濃い現察でした。それぞれの訪問先で、互いに提案・要望を出し今後の交渉を通じて相互の利益となるよう進めていかなければならない。我々はその努力を続けます

民主こうべ政策議員団　藤原武光

この度の視察では、神戸港の活性化を目指し、上海市、義烏市、深セン市等における貨物量及び客船寄港増加等の可能性と誘致について調査を行った。

また、調査にあたっては岡口副市長をはじめ、みなと総局の幹部と同行となった。このことを前提にした視察報告書とした。

【上海国際港務集団】

上海国際港務集団では、クルーズ客船の現状と誘致について意見が交わされた。現在多くのクルーズ客船は九州までとなっている、その理由は、旅行費と日程によるところが多いに影響しているとのこと。もし、神戸に寄港すると日数が 8 日となり（福岡は 5 日）、中国の休暇の在り方による問題が出る。費用も 6～9 万円が 10 万円を超えることになり、中間所得層（年収 100～200 万円）が利用しているクルーズ客船では難しい。もう少し中国全体の個人の GDP のアップが必要とのことであった。

また、爆買いの理由については、中国にはお土産文化があり、滅多に行かない海外旅行に行くときは親戚一同隣近所にお土産を配る必要があるため、とのことであった。

神戸では、瀬戸内でのクルーズ客船の旅行商品を開発するとともに、関係する機関や地域及び関係首長などと連携し、商品化の実現に向けたアクションを起こすことが重要である。

瀬戸内クルーズ船の商品化に向けた政策や事業化について関係機関と協議を進めたい。

【義烏市】

当初、義烏市政府賀少軍副市長を表敬訪問する予定であったが、先方の都合によりキャンセルとなったのは残念である。

義烏市では、日用品卸センターの視察を行った。日本の 100 円ショップの商品はこのセンターからの買い付けが多いことは周知の通りである。規模や機能については驚くばかりで、約 550 万㎡の広さを持つセンターで、第 1 区から第 5 区までで 75000 店舗が張り付き 20 万人が制品製造関係で働き、1 日 30 万人の来客があるとのこと。視察の当日、スーダン国王が来客されるなど世界のバイヤーが買い付けに来る集積センターとなっていた。

取引及び買い付けの国を聞くと、アフリカ、中近東、アジアなどであった。

最近中国で言われている「一帯一路」構想にこの卸センターも一役買うこととなっている。新たなシルクロード構想の陸路は中国を起点に中央アジアから欧州（義烏市～スペイン）に至る経路と、海路は中国沿岸部から東南アジアや中東（義烏市～アジア～アフリカ～欧州）を経由する経路となっている。アジアと欧州を結ぶ貿易圏で中国から欧州の一大経済圏となるとみられている。

毎年、各国の展示会が開催されるので 2016 年神戸のブース出展の誘いがあった。（2015 年は、100 ヶ国・5000 点の商品が展示された）

また、第5区は輸入品専門店で、現在100ヶ国・6500点の商品が展示されており主にEネット販売が中心と聞いた。

この、日用品卸センター機能を神戸の中小企業の活性化策にどう反映させるのか今後の検討となるが活用策を考えたいと思った。

【深セン市】

目まぐるしく発展する中国を見るにつけ、驚くと共に脅威にも感じた。中国が改革開放政策の第一番目の地域である深セン市を視察できたことは感慨深いものがあった。30万人の小さな農漁村の街が、1000万人を超える街に変貌していた。深セン市9区の内、人口の多い区では500万人を超えるなど人口の多さに改めて驚嘆した。特に経済区、物流区など明確に分けられた区があるなど日本の行政組織と考え方の違いが明確だった。

さて、この深セン市は、第二の香港を目指していると感じた。再開発が進むにつれ住宅などのマンションは値段が驚くほどに高く、住環境にはデメリットもあると感じざるを得なかった。

背後地には日本をはじめ各国の自動車産業等の進出で、物流の一大拠点化の街へと変貌を遂げていた。最近の中国経済の落ち込みはこの物流拠点にも影響があるとお聞きした。また、中国国内での賃金の高騰により他のアジア地域に少しずつ生産拠点の移動があることも事実として掴むことが出来た。とはいえ、中国の市場の大きさにはまだまだ魅力があることも間違いない。日本・神戸の企業が海外進出するにあたって今後どのような戦略を立てるのか悩ましい状況である。

【CIMC集中本社】

CIMC集中は2兆円規模の企業で利益も4500億円とのこと。事業は、コンテナの製造において世界の50%のシェアを誇り、物流やエネルギー産業をはじめ、海洋工学産業及び金融融資事業など幅広く展開されている。約6万人の社員を擁し、100カ所の国と地域に事業の取引や事業拠点を置いている。

いま、CIMC集中が力を入れている事業は、モジュール建築分野の世界展開と、「坪山生命健康タウン」プロジェクト構想の実現である。特に、「坪山生命健康タウン」構想については、神戸市の様々な角度からの指導とご支援を頂きたいと強い要望があった。

中国も一人っ子政策を転換するなど、高齢化社会への対応が急がれる状況であり、それに対応する生命・健康について、新しい視点で高齢化社会への構想が検討されていたところであった。丁度CIMC集中の幹部が、「神戸医療産業都市」を視察したことから、神戸モデルを深セン地域にも応用したいとの思いが強く、省と市政府と協議を行うなど構想の実現に向けた取り組みがなされつつある状況である。

神戸の医療産業都市はアジアへの国際貢献が目的の一つであることから、中国の省及び市と企業との間で協働できる事業の検討を行うなど一歩踏み出した支援をしたい。